



健康百話

～今回は豊島内科医院の豊島先生にお話を伺いました。～

講師紹介

豊島内科医院
院長(医学博士)

豊島 正憲 先生
(とよしま まさのり)



プロフィール

昭和48年3月
京都大学医学部卒業

昭和48年4月
京都大学医学部附属病院 老年医学専攻

昭和61年4月
豊島内科医院継業

■診療科目：内科・呼吸器科・消化器科・循環器科

診療時間	月	火	水	木	金	土
午前 (9:00～12:00)	○	○	○	○	○	○
午後 (13:30～17:00)	○	○	△	○	○	△

診療時間：△13:30～15:00



住所：〒790-0844
松山市道後一万3番7号
電話：089-924-2936

健康情報!

遺伝子を中心とした新しい医学

この20年間、医学は遺伝子の分野を中心に急速な進歩をとげました。今まで分からなかったホルモン等の働きが解明されてきました。

人間の体は何兆個の細胞からできていますが、細胞の中の核にはすべて同一のDNAが入っています。DNAの一部がRNAに転写され、そのRNAがアミノ酸に翻訳され、アミノ酸が組み合わさってタンパク質になります。DNAのどの部分が転写されるかで、心筋細胞、神経細胞、皮膚細胞等の異なる細胞ができてくるのです。ホルモンとは、DNAのどの部分を転写するか命令するものだったのです。

DNAのアミノ酸情報を記した部分は1割以下です。10年前までは9割のDNA領域の働きは不明でした。最近5割近くのDNA領域からアミノ酸に翻訳されないRNAが転写される事が分かってきました。それはRNAの転写を調節するものでした。これを利用してRNAの転写を調節する薬が作られています。

またDNAは複数のヒストンというタンパクに巻きついています。きつく巻きつくと転写されにくく、ゆるく巻きつくと転写されやすくなります。この巻き方を変えて転写を調節する薬が作られています。現在、日本でも使われている薬があります。

話題のIPS細胞とは4つの遺伝子を細胞に導入して、どんな細胞にも分化する万能性を与えるものです。最近、その4つの遺伝子が働く部位はDNAのアミノ酸に翻訳されない領域であるということが報道されました。今後の発展に、目が離せません。



高濃度プロビタCゲル

体にやさしいかん治療の一つとして現在注目されている、高濃度ビタミンC点滴療法。(保険適応外自費診療)この商品は高濃度ビタミンC点滴療法の補助を目的として開発されました。ビタミンCをたくさん必要とされる方にお勧めいたします。

高濃度プロビタCゲルは、高濃度のビタミンC誘導体(L-アスコルビン酸2-グルコシド：略してAA-2G)をゲル状にして体にやさしいはちみつを配合した健康食品です。

通常1日2回(朝晩)、小さじ1杯程度(8g)を目安にお召し上がりください。そのまま、またはパンやヨーグルトと一緒に、また、紅茶やジュースに入れてもおいしくお召し上がりいただけます。

本品はティースプーン2杯で約5gのビタミンC(AA-2Gにして約10g)を摂ることができます。